

ポスター | 第40回医療情報学連合大会（第21回日本医療情報学会学術大会） | ポスター発表

ポスター7

薬剤情報システム・モバイル/セキュリティ

2020年11月20日(金) 11:20 ~ 12:20 G会場 (イベントホール・特設会場2)

[3-G-2-02] 薬剤師・医療情報技師（HIT-Pharmacist）に対する現状調査 2020～第2章 所属医療機関の薬剤部門システムについて～

*谷口 美悠¹、小池 健太²、大庭 理寛³、荒 義昭⁴、高橋 正明⁵、上村 忠聖⁶、須藤 智久⁷、瀬戸 良教⁸、佐藤 弘康⁹

（1. 薬剤師・医療情報技師会, 2. 医療法人社団誠警会総泉病院 薬剤部, 3. JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院 薬局, 4. 国立病院機構信州上田医療センター 薬剤部, 5. 社会医療法人若竹会つくばセントラル病院 薬剤部, 6. 一般財団法人神奈川県警友会けいゆう病院 薬剤部, 7. 国立がん研究センター がんゲノム情報管理センター, 8. 北里大学病院 薬剤部, 9. JA北海道厚生連帯広厚生病院 薬剤部）

*Miyu Taniguchi¹, Kenta Koike², Masahiro Ohba³, Yoshiaki Ara⁴, Masaaki Takahashi⁵, Tadamasa Kamimura⁶, Tomohisa Sudo⁷, Yoshinori Seto⁸, Hiroyasu Sato⁹（1. 薬剤師・医療情報技師会, 2. 医療法人社団誠警会総泉病院

薬剤部, 3. JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院 薬局, 4. 国立病院機構信州上田医療センター 薬剤部, 5. 社会医療法人若竹会つくばセントラル病院 薬剤部, 6. 一般財団法人神奈川県警友会けいゆう病院 薬剤部, 7. 国立がん研究センター がんゲノム情報管理センター, 8. 北里大学病院 薬剤部, 9. JA北海道厚生連帯広厚生病院 薬剤部）

キーワード：Hit-Pharmacist, healthcare information technologist, hospital information system, pharmacist

【目的】我々は医療情報技師の資格を取得した薬剤師を薬剤師・医療情報技師（以下 HIT-Pharmacist）と称し、「薬剤師・医療情報技師会」を設立している。今回、薬剤師・医療情報技師会に所属する HIT-Pharmacist を対象として、実態調査のアンケートを実施したので、薬剤部門システムに関する項目について報告する。

【方法】2020年4月時点における薬剤師・医療情報技師会の会員221名に対して、メーリングリストを利用してアンケートを実施した。

【結果】82名の有効回答のうち、病院・薬局に所属する69名を対象として、薬剤部門システムに関する回答を解析した。病院63施設、保険薬局6施設のうち、自動錠剤分包機は全体の94.2%、アンプルピッカーは病院全体の55.6%で導入されており、特に500床以上の大規模病院で90.5%と導入率が高く、2016年の調査と同様の結果であった。GS1 DataBarの利用率は注射ピッキングチェックシステム、錠剤ピッキングチェックシステムで高く、それぞれ95.0%、84.2%であった。また、病棟業務日誌では病院全体の49.2%が自作のシステムを利用しており、薬剤管理指導記録では50.8%が部門システムを利用していた。

【考察】各システムの導入率等、2016年の調査と比較して大きな変化は見られなかった。中小病院でのアンプルピッカーの導入率が低いが、小規模な病院ほど高価なシステムを購入することは難しく、また必要性も低いと考えられるため、今後も同様の傾向が見られると予想される。一方、病棟業務日誌では、半数近くの病院で自作のシステムを利用しており、安価で使いやすいものを求めた結果であると考えられる。医療情報技師として自施設に合ったシステムを追求していくために、今後も調査を続けていく必要がある。

薬剤師・医療情報技師(HIT-Pharmacist)に対する現状調査 2020

－ 第 2 章 所属医療機関の薬剤部門システムについて－

谷口 美悠^{*1}、小池 健太^{*2}、大庭 理寛^{*3}、荒 義昭^{*4}、高橋 正明^{*5}、

上村 忠聖^{*6}、須藤 智久^{*7}、瀬戸 良教^{*8}、佐藤 弘康^{*9}

^{*1} 薬剤師・医療情報技師会、^{*2} 医療法人社団誠馨会総泉病院 薬剤部、

^{*3} JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院 薬局、^{*4} 国立病院機構信州上田医療センター 薬剤部、

^{*5} 社会医療法人若竹会つくばセントラル病院 薬剤部、^{*6} 一般財団法人神奈川県警友会けいゆう病院 薬剤部、

^{*7} 国立がん研究センター がんゲノム情報管理センター、^{*8} 北里大学病院 薬剤部、

^{*9} JA 北海道厚生連帯広厚生病院 薬剤部

Field survey intended for the pharmacists with a qualification of “Healthcare Information Technologist” in 2020

- Chapter 2 About the drug department system of the member's medical institution -

Miyu Taniguchi^{*1}, Kenta Koike^{*2}, Masahiro Ohba^{*3}, Yoshiaki Ara^{*4}, Masaaki Takahashi^{*5},

Tadamasa Kamimura^{*6}, Tomohisa Sudo^{*7}, Yoshinori Seto^{*8}, Hiroyasu Sato^{*9}

^{*1} Association of Healthcare Information Technologist and Pharmacist, ^{*2} Department of pharmacy, Sousen Hospital,

^{*3} Department of pharmacy, Isehara Kyodo Hospital,

^{*4} Department of pharmacy, National Hospital Organization Shinshu Ueda Medical center,

^{*5} Department of pharmacy, Tsukuba Central Hospital, ^{*6} Department of pharmacy, Keiyu Hospital,

^{*7} National Cancer Center Center for Cancer Genomics and Advanced Therapeutics,

^{*8} Department of pharmacy, Kitasato University Hospital, ^{*9} Department of pharmacy, Obihiro Kosei General Hospital

In recent years, the utilization of information systems has also advanced in pharmacist business. In order to use the healthcare information system safely and effectively, the number of pharmacists who acquire "Healthcare Information Technologist" is increasing, and these pharmacists have established the "Association of Healthcare Information Technologist and Pharmacist". This time, we conducted a questionnaire survey of pharmacists and medical information technologists, so we will report on the items related to the dispensing support system of our facility. A questionnaire was conducted using the mailing list to 221 members of the Association of Pharmacists and Medical Information Engineers as of April 2020. Of the 82 valid responses, we analyzed the responses regarding the dispensing support system, targeting 69 persons who belong to hospitals and pharmacies. There were 63 hospitals and 6 insurance pharmacies. 94.2% of the whole automatic tablet packing machines and 55.6% of the whole ampoule pickers were installed in hospitals, and the introduction rate tends to be high in large hospitals, which was the same result as the 2016 survey. The utilization rates of GS1 DataBar were high in the injection picking check system and tablet picking check system, which were 95.0% and 84.2%, respectively. In addition, 49.2% of all hospitals used the self-made system in the ward work diary, and 50.8% used the department system in the drug management instruction record. The introduction rate of each system did not change much compared to the 2016 survey. Although the introduction rate of ampoule pickers in small and medium-sized hospitals is low, it is difficult to purchase more expensive systems in smaller hospitals, and it is expected that similar trends will be seen in the future. On the other hand, in the ward logbook, nearly half of the hospitals use their own systems, and we think that this is the result of seeking inexpensive and easy-to-use ones. It is not important to install a system, but it is important to install and operate a system that suits each facility. As a medical information engineer, it is necessary to continue the survey in order to pursue a system that suits my facility.

Keywords: HIT-Pharmacist, Healthcare Information Technologist, Hospital Information System, Pharmacist

1. はじめに

我々は医療情報技師の資格を取得した薬剤師を薬剤師・医療情報技師(以下 HIT-Pharmacist)と称し、「薬剤師・医療情報技師会」を設立している。今回、2016年に引き続き「薬剤師・医療情報技師会」に所属する HIT-Pharmacist を対象として、実態調査のアンケートを実施したので、薬剤部門システムに関する項目について報告する。

2. 方法

2020年4月時点における薬剤師・医療情報技師会の会員

221名に対して、メーリングリストを利用してアンケートを実施した。

3. 結果

82名の有効回答のうち、病院、薬局に所属する69名を対象として、薬剤部門システムに関する回答を解析した。

(1) 自動錠剤分包機を導入している施設は、69施設中65施設であり、2016年の調査と大きく変化しなかった(図1)。

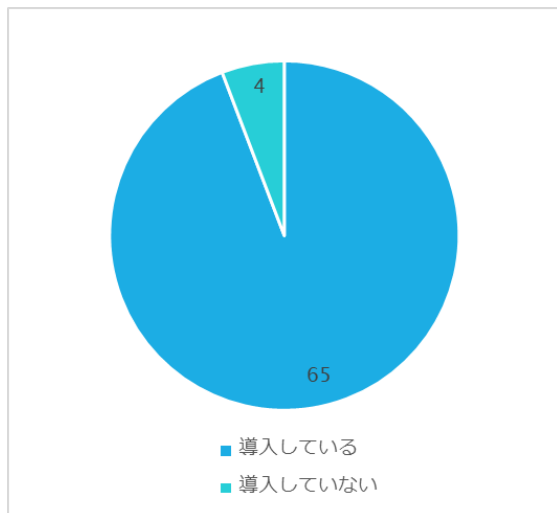


図1 自動錠剤分包機を導入している施設数

(2)アンブルピッカーを導入している施設は、病院 63 施設中 35 施設であった。また、病院の規模別では、大規模な病院ほど導入率が高い傾向にあり、2016 年の調査と同様の傾向であった(図 2)。

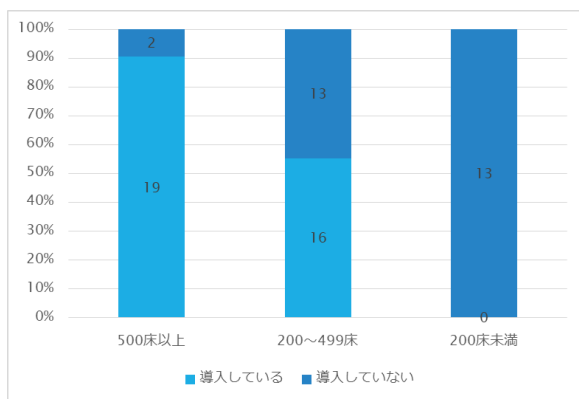


図2 アンブルピッカーを導入している施設の割合

(3)GS1 DataBar の利用率は、錠剤ピッキングチェックシステムと注射ピッキングチェックシステムで高かった(図 3)。また、自動錠剤分包機での GS1 DataBar の利用率が 2016 年の調査時の 36%から上昇し、52%であった。

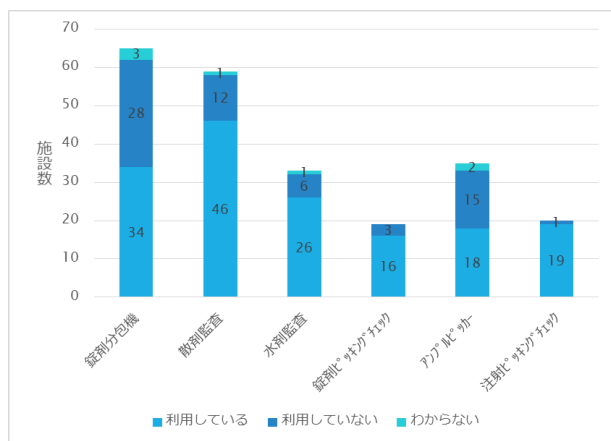


図3 GS1 DataBar の利用状況

(4)薬剤管理指導記録は部門システムを利用している施設が病院全体の 49.2%と最も多く(図 4)、病棟業務日誌は自作のシステムを利用している施設が 50.2%と最も多かった(図 5)。

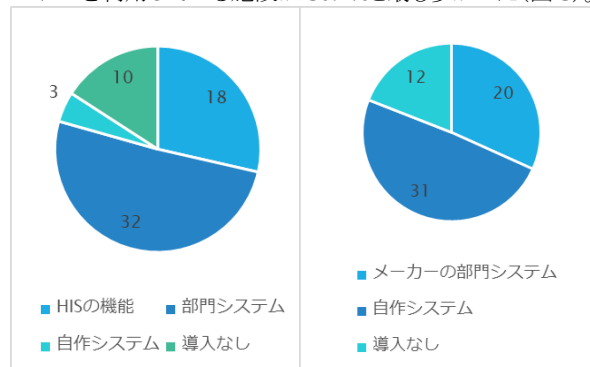


図4 薬剤管理指導記録

図5 病棟業務日誌

4. 考察

自動錠剤分包機、アンブルピッカーなどの調剤機器では、2016 年の調査と比較して導入率に大きな変化は見られなかった。自動錠剤分包機はすでに多くの施設で導入されており、アンブルピッカーも必要性の高い大規模病院で導入率が高いことを考えると、今後も同様の傾向が続くと思われる。一方、自動錠剤分包機での GS1 DataBar の利用率は 2016 年の調査と比較して上昇していた。薬剤部門システムにおいて、GS1 DataBar の利用は今後も広まっていく可能性がある。薬剤管理指導記録と病棟業務日誌ではそれぞれ、部門システムと自作のシステムを利用している割合が高くなっていたが、これらは利便性とコストを考慮した結果であると考えられる。

5. 結語

薬剤部門システムにおいて、必要な調剤機器は多くの医療機関ですでに導入されていると考えられる。しかし、質の部分では改善の余地が残されており、また、医療制度の変化や働き方改革なども考えると、システムにさらなる変化が求められるであろう。GS1 DataBar の利用は一例であるが、利用できる情報を有効活用することは重要である。また、各施設に合ったシステムを構築することが必須であり、本研究により今回調査に参加した医療機関ではそれぞれ工夫していることが推測された。HIT-Pharmacist として今後もシステムを有効かつ安全に利用するためにも、本調査を継続し、常に自施設のシステムを見直していくことが必要と考える。